

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】令和 4 年 5 月 18 日 (2022.5.18)

【公開番号】特開 2021-42762 (P2021-42762A)

【公開日】令和 3 年 3 月 18 日 (2021.3.18)

【年通号数】公開・登録公報 2021-014

【出願番号】特願 2019-162523 (P2019-162523)

【国際特許分類】

**F 1 6 C 35/063 (2006.01)**

**F 1 6 C 19/18 (2006.01)**

**F 1 6 C 25/08 (2006.01)**

**B 2 1 D 39/00 (2006.01)**

10

【F I】

F 1 6 C 35/063

F 1 6 C 19/18

F 1 6 C 25/08 Z

B 2 1 D 39/00 D

【手続補正書】

20

【提出日】令和 4 年 5 月 10 日 (2022.5.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0037

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0037】

そして、かしめ部 19 を形成した後（かしめ完了状態）の内輪 13 の外径寸法  $D_1$  と、ハブ輪 14 の嵌合筒部 17 に外嵌する以前の内輪 13 の外径寸法  $D_0$  との差（ $D_1 - D_0$ ）である内輪 13 の膨張量  $D$  に基づいて、アキシアル隙間減少量  $C$  を求める。アキシアル隙間減少量  $C$  は、かしめ部 19 を形成することに伴う、ハブユニット軸受 1 のアキシアル隙間の減少量を表す。内輪 13 の膨張量  $D$  と、アキシアル隙間減少量  $C$  との関係は、予め実験やシミュレーションなどによって求め、演算装置のメモリに、マップまたは式として記憶しておく。すなわち、内輪 13 の膨張量  $D$  を前記演算装置に入力し、前記マップまたは式を用いて、アキシアル隙間減少量  $C$  を求める。

30

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0053

【補正方法】変更

【補正の内容】

40

【0053】

初期アキシアル隙間  $C_0$  からアキシアル隙間減少量  $C$  を減ずる（ $C_0 - C$ ）ことにより、かしめ完了状態でのハブユニット軸受 1b のアキシアル隙間  $C_1$  を求める。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1

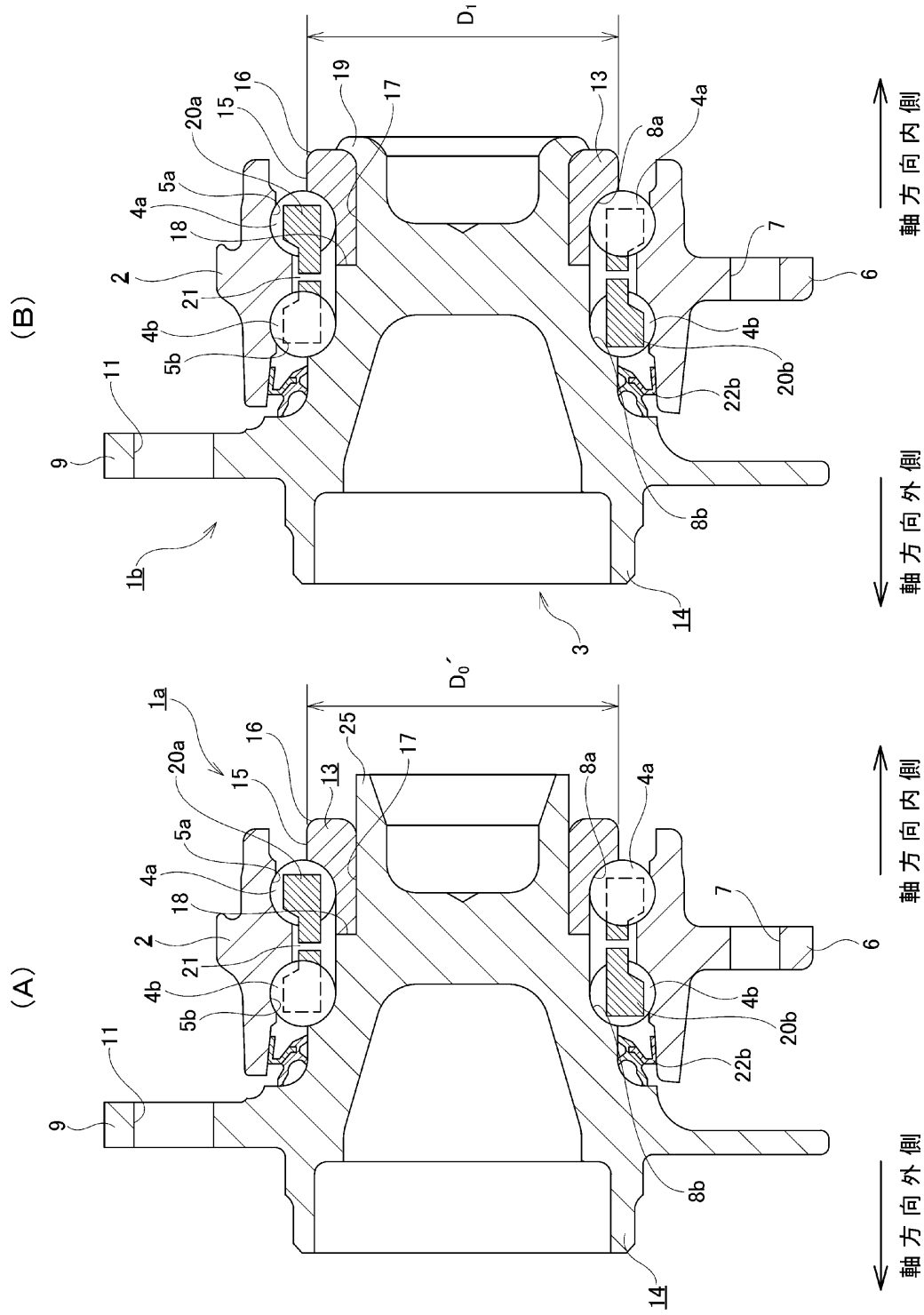
【補正方法】変更

【補正の内容】

50

40

【図 2】



10

20

30

40

50